ピちぎ経済

政経部経済担当　電話028・62

鹿沼「アンバ様」、市貝のシバザクラ…

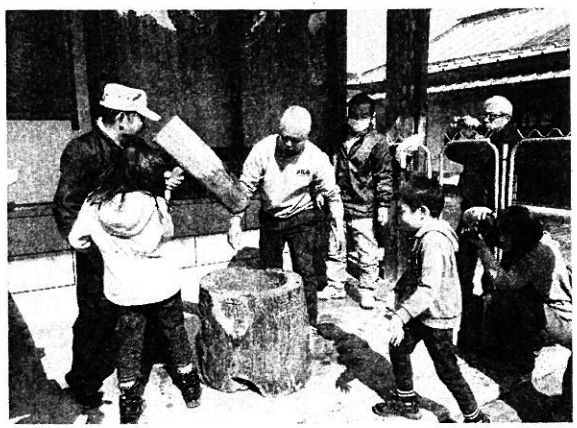
地域資源に注目 旅行商品を強化

宇都宮・えにしトラベル

温泉ヘルスツーリズムも

地域商社ファーマーズ・フォレスト（宇都宮市新里町、松本謙社長）の旅行部門「えにしトラベル」は、本県の地域資源を掘り起こした新たな旅行商品づくりに力を入れている。今後はヘルスツーリズム商品を初めて投入するほか、ガイドなどの多言語対応を強化する。2018年春にJRグループの大型観光企画「デスティネーションキャンペーン」を控え、一過性に終わらない仕掛けをつくる考えだ。

（伊藤一之）



鹿沼市久我の古民家で行われた餅つきを楽しむツアー＝2016年2月

えにしトラベルは、地域の良さをじっくり味わう「着地型観光」を提供。14年には宇都宮市の大谷石採掘場跡の地底湖ツアーを商品化し、延べ約3200人（16年度末見込み）が参加するまでに育て上げた。

他にも大田原市の茶摘みや宇都宮市篠井町のみそ造り、日光市移住体験など、隠れた地域資源や旬の食を組み合わせた商品を提供している。多くが県外から訪れ、移住や就農につながった例もあるという。

新たな地域資源の旅行商品は、てんぐが先導するみこしが地域内を練り歩く鹿沼市板荷の伝統行事「アンバ様」ツアーや、さくら市喜連川の足利氏と喜連川温泉を巡るツアーなど。いずれも3月上旬の開催を予定する。さらに4月にはシバザクラの最盛期に合わせた市貝町ツアーも検討している。

またチェーンソー資格が取れる女性限定の体験型ツアーや、鹿沼市の粕尾、永野を巡るツアーなどグリーンツーリズム商品を充実。塩原温泉でヘルスチェックやウオーキング、温浴などを体験するヘルスツーリズムも投入する。

外国人観光客の増加を見込み、各種ツアーを紹介するホームページを英語と中国語版で作成する。ガイドも多言語対応できるようにし、栃木というローカルを世界に発信する考えだ。松本社長は「その地の歴史などに触れた人が『自分事』として捉えられるような仕掛けを作り、地方創生に結び付けたい」と話している。